

**令和５年度 第３回いわき市社会福祉審議会児童福祉専門分科会
(子ども・子育て会議) 議事録**

１ 開催日時

令和６年２月７日（水） 午前１０時から午前１１時まで

２ 開催場所

いわき市文化センター ３階 大会議室

３ 出席者

(１) 児童福祉専門分科会委員（１５名のうち１０名出席） ※五十音順

荒川正勝委員、赤津慎太郎委員、伊藤順朗委員、小野雅子委員、草野祐香利委員、
志賀達生委員、菅波香織委員、鈴木隆次郎委員、富樫那都子委員、村井恭子委員

(２) 事務局（９名）

こどもみらい部：長谷川部長、市川次長兼総合調整担当

こどもみらい課：篠原参事兼課長、丹野課長補佐、遠藤主任主査兼企画係長、
上林主査

こども支援課：鈴木参事兼課長

こども家庭課：沼田課長、赤塚主幹兼課長補佐

４ 報告・協議事項等

- (１) いわき市立内郷保育所・いわき市内郷子育て支援センターについて
- (２) 次期計画策定に向けた調査について
- (３) 四倉地区市街地再生整備について

５ 会議の形式等について

- ・ 委員半数以上の出席があり、会議が成立していることを確認した。
- ・ 会議を公開することを確認した。
- ・ 議事録は、議事に直接関係する発言又は説明内容のみを記録し、委員名を記録しない「要点筆記方式」で作成することとした。
- ・ 議事録署名人は鈴木隆次郎委員、富樫那都子委員の２名を選出した。

６ 内 容

～報告事項～

(１) いわき市立内郷保育所・いわき市内郷子育て支援センターについて（資料１）

発言者	発言内容
会長	報告事項(１)のいわき市立内郷保育所・いわき市内郷子育て支援センターについて、事務局より説明を求める。
事務局	資料１に基づき説明

会長	事務局の説明に対し、何か意見・質問があれば発言願いたい。
A委員	子育て支援センターの利用方法や相談の流れを具体的に教えていただきたい。
事務局	市内で実施している地域子育て支援拠点事業では、基本的に自由に親子が交流のために来館し、自由に相談していただいている。一部、四倉の「チャイルドハウスふくまる」では、時間をかけて相談を受けるような深刻な内容については予約制で行っている。 子育て支援センターについては、業務委託での運営を予定しており、現在公募中であり今月末には事業者が決定する。事業者が決定した段階で、こういったような形での運営をしていくか、具体的な内容については、市と事業者の方で詰めていきたいと考えている。
A委員	そうすると、ふくまるのように土日も子連れの方が利用できるということよろしいか。
事務局	現在、内郷児童館は、日曜日が休みで土曜日が午後３時までだが、保護者には土曜日がお仕事で、日曜日が休みというような方もいるため、利用者の利便性を考えて、この新たな支援センターでは、日曜日についても開設、代わりに月曜休みとし、その中で自由に来館していただくというような形になっている。
会長	その他、ご質問等ありますでしょうか。 特にないようなので、次に進みます。

～協議事項～

(1) 次期計画策定に向けた調査について（資料２・３・３－１・３－２、参考資料１）

ア こども大綱について

イ 次期計画策定に向けた調査について

発言者	発言内容
会長	協議事項(1)の次期計画策定に向けた調査について、事務局より説明を求める。
事務局	資料２、参考資料１、資料３、３－１、３－２に基づき説明
会長	事務局の説明に対し、何か意見・質問があれば発言願いたい。
A委員	資料３－２、こども大綱目標項目の現状値というのは、国の数字ということよろしいか。

事務局	おっしゃるとおり国の数字です。
A委員	そうすると、今回のいわき市の調査を行うのは中学2年生なので国の大綱とは違うことはわかりました。 それとは別に、こども大綱の目標項目に関して、16歳から49歳を対象に、いわき市のどこかの担当部署でアンケートを取ることを想定しているでしょうか。
事務局	調査業務の事業者の選定の提案の中に、パブリックコメント等の方法で若者に対する調査に関する提案もありましたので、今後、事業者ともやりとりをしながら、上手に聞いていきたいと考えている。
A委員	例えば、いわき市内の大学にお願いをするであるとか、いろいろ考えられると思われる。こども大綱が始まる前の段階での、今のいわき市の現状を把握しておくのもすごく大事かと思うため、意見とさせていただく。 もう1つ意見として、不登校児の日中の過ごし方を項目に入れていただいて、非常によかったなと感謝申し上げる。追加設問例の、学校への出席について、1が基本的に毎日出席、2が週に1日程度登校と設問に出ているが、私たちも不登校のお子さんを支援している時に、数字としては見えにくい部分として、毎日学校には行っているが教室には行けていないなど、一人ひとりのお子さんの状況は、それぞれ違うという認識がある。もし設問を少し工夫できるならば、学校には行っている、その中でも教室に出ているのか、そうじゃないのか、というようなところも少し分けて調査していただけると、非常に参考になるため、ありがたい。
事務局	学校に通っているだけではなくて、教室に行けているかなどなについても、項目として検討して参りたい。
A委員	参考資料1のこども大綱に関連して、国の政策決定過程へのこども・若者の参画が促されている。いわき市でも、若者の意見表明や参画の機会を増やしていく必要があると思っている。例えば、この審議会にこども委員を、加えるというのも、すごくすてきなことかと思う。いわき市は生徒会サミットなども活発にやっているところもあるので、そういうリーダーとして育まれているお子さんを審議会のメンバーにするのもありかと思う。 私も関わっている民間の取り組みで、いわきFCの新スタジアム検討委

	員会も、「ユースフォーラム」で小学生から、大学生と幅広く活躍をしていて、意見を大人に対して伝え、大人が感動して泣いてしまうぐらいのことが起きている。子どもたちの力、すごくすてきなものを皆さん持っているなどというところで、子どもたちとともにいわき市のこども施策のあり方を審議していく場ができたなら嬉しいというところで、意見とさせていただきます。
事務局	私たちも、子どもたちから意見をいただく方法の一つが生徒会サミットと考えており、その他に、今おっしゃられた通りに、庁内各部で色々なところと連携して若い方々のご意見をいただいている場面もある。何かテーマを決めてそれを解決していくというのも一つの方法であるが、子どもたちが意見を言い出しやすい場の作り方、子どもたちが自分たちのことを、大人の押し付けじゃなくて考えていく、という場合は、先日、A委員のご紹介で、私たちもあるイベントに参加させていただいたが、子どもたちが自分たちで決めるところまでいかなくても、意見を言うことの場が、まずは第一歩というふうに考えている。
A委員	前向きに検討いただきたい。 また、3月24日午後に、この会場で、いわき市長も含め、子どもたちを集めていわきの教育を考える対話の会を開催しようと計画している。詳細が決まったらご案内します。
B委員	資料3―2で説明いただいた中で、国は12項目だが、11項目にしたというところで、「自国の将来は明るい」というところが、ここを「いわき市の」、という形で、今回の調査じゃなくても良いが、質問等をしていただきたい。 あと、明るいとは言わなくても将来も住んでいきたいというような設問でも良いが、市に対しての子どもの考え・意見を聞けるようなものがあればいいかと思う。
事務局	いわき市について、市の子どもたちや若者がどう思っているのか聞けるような項目を検討していきたいと思う。
C委員	国から出されたこども大綱について、いろいろ進めていくという話で伺っている。また、各委員からいただいた意見なども参考にしながら今いろいろ考えさせていただいたところである。 国の動向以外のところで、いわき市や福島県でいうと、全国の中でも特別な位置付けがされている県であり、市であると思っており、そういったところも加味しながら、今後子ども達がどんな環境で生活や教育を

	受けていくのか、またその後、ふるさとを思えるような子どもになっていってもらいたいと思い、そのようなところをどう結びつけていくのかというのがとても大事になってくると思う。 この質問等に関しては国から出されているものなので、鈴木委員がおっしゃったような、いわき市についても設問を加えるというのは賛同するが、そのあと、これらを元にして、どのような変化をされていくのかってというのが、とても気になるところでしたので、今後も意見を出させていただきながら、よりよいいわき市になっていければと思う。意見というよりは私の考えを述べた。
会長	事務局何かございますか。
事務局	まさに先ほど「いわき市」についてアンケートをとったほうが良いという話に繋がる話で、市が国の動向と連動しなければならないが、市としてはどうしていくのか、現状把握と、数年後、また5年後、さらに5年後と数字が少しでも良くなるように、来年度のプランの策定に結びつけたいと思う。
会長	その辺りを十分に検討して進めていただきたい。 その他、ご意見等ございましたらお願いいたします。
D委員	アンケートで、保護者の回答者は「母親・父親・その他」になっているが、無作為抽出して各世帯、家庭に送られた時に、その中のどなたが回答するのか。シングルの家庭もあるし、両親がいない家庭もある。だから「保護者」と回答していただくようになると思うが、ただ、多くは母親であると思われ、回答者の偏りが出ないようにすることや、各保護者の関わり合いが分かる形など、そういったところはどう考えているか。
事務局	一般的に、こういったアンケートを取った場合にどうしても母親が回答することが多いと想像してしまうが、やはり今D委員がおっしゃられたように、母親の関わり方、父親の関わり方が異なると思われるため、今後、委託業者と相談しながら、こういった工夫が講じられるか市としても検討していきたいと思う。
D委員	アンケートの中には育休のことも出てくると思うので、父親の育休の取り方、育児への関わり方などが出でくると、次の計画への課題も見えてくるのではないかと考えています。
B委員	意見というよりは提案ですが、先ほどA委員も市内の大学にアンケート

	という話があったが、私も所属がいわき短期大学であり、まさに今後の子どもを担っていく、保育士・幼稚園教諭養成しています。市から若者が流出するタイミングとしては、大学進学と、あとは大学等の卒業後の就職だと思いますので、本法人としては東日本国際大学もあり、アンケート調査もぜひ協力しますので、お願いしたいと思います。
事務局	心強いご意見にありがとうございます。 これから私たちもいろんな調査とかこのアンケートだけでは見えない部分とかとりきれないような部分を工夫して、いろんな場面で意見をいただいきたいと思いますので、今後ご協力をよろしくお願いいたします。
会長	その他、ご意見等ございますでしょうか。
A委員	以前の分科会で申し上げたかもしれませんが、こども大綱の内容がこどもまんなか社会を目指すという子どもの人権というところを非常にわかりやすく記載されているなどと思う。こういうものが国の方向性として出ているということが保護者であるとか子どもの支援に関わる方々であるとか、子ども自身にも私たち国としてこういう方向であなたたちのことを考えているというメッセージを伝えることは希望に繋がったりするのかなと思う。 こういうこどもまんなか社会のこども大綱の内容を周知するような、啓発するような、取り組みをいわき市の方で何か考えていらっしゃるのか、また、もしまだ予定のないようであれば何かしら機会を作ってもらえるといわき市全体として市民一人一人もこういうものを目指すとかわかる。先ほどD委員が言っていたように父親も、このようなアンケートを取ることで、こどもまんなか社会について伝わる機会になるのではないかなと思う。 その辺も含めて全体で盛り上げられたらいいと思う。
事務局	前回も意見をいただいております、先ほどあった庁内のこども部局以外でも子ども・若者との繋がりを持ったやり方や、今回の調査など、子どもたちから意見を頂く場を設け、もう全てを大人が決めるのではなく、子ども達が中心となっていくのだということを、この今回の調査やプランの改定も通して伝えていきたいと思います。 あとはぜひ、本日お集まりの皆様とコラボしながら、やっていけたらなと思う。
C委員	A委員のご意見に関連してですが、県の方の子育て会議にも参加させて

事務局	頂いているのですが、県で製作されている資料の方が、私には絵がととも多かったので、とてもわかりやすい資料となっていました。 今までは大人が決めていたけれども、子どもたちが中心になって決めていくのだよということころも図案など使って説明していてとても意見しやすい、参加する方もわかりやすい説明の仕方だなと思う。資料提供などではできると思うので今後よりよくなっていければと思う。 子どもたちの会議についての参画については、本会議は公開されているものなので、公開をされているということの周知が第一段階で必要ではないかと。 その先も規程なども様々あると思うので委員として参加なのか、参考委員みたいな形で意見は出せないけれども聞くだけならできますよということになるかなと思いますが、今、積極的に高校でも、中学校でも探求活動を通して、自分の住んでいる所を深く知っていくことという取り組みも行われていると思う。いわき市の主軸を活用することも大事だが主軸に入らないような、生徒会長以外も様々な子どもたちの意見が出せる場になるとよいかなと思う。 大変貴重なそして心強いご意見ありがとうございます。 いただいたご意見をもとに今選定した業者、事業者からの提案もありましたので総合的に詳細を検討したうえで調査していきたいと思う。
-----	--

～その他～

(1) 四倉地区市街地再生整備について（参考資料２）

発言者	発言内容
会長	その他(1)の四倉地区市街地再生整備について、事務局より説明を求める。
事務局	参考資料２に基づき説明
会長	これは情報提供ということではあるかとは思いますが、事務局の説明に対し、何か意見・質問があれば発言願いたい。
C委員	情報提供、ありがとうございました。保護者の目線としては、今までも小中学校の合併校については、いわき市内でもあったかなと思いますが、これだけの人数を抱えて行われるような大きな施設っていうと、とても明るい未来が想像できるようなものに展開してくのではと思います。 ただ、この周辺にも私立の幼稚園、認定こども園などもありますので、そういう方からも意見を聴くような形とっていただくと、より良くなっ

	ていくのかなと思います。 現在、大熊町で幼小中の「ゆめの森」が展開をされていますけれども、少人数の中でやっていると認識をしておりますが、今回この提示されている人数を見ると本当にこの子たちが大きくなっていくときにはすごく大きな展開を見せるような、いわきでも魅力があるような幼小中になっていくのかなと思いますので、よりよく検討していただければ幸いかなと思います。 またこのような計画については、大人が子どもたちに対する提案の仕方であると思います。こども大綱も閣議決定されたということで、今回を機に、子どもたちや周辺の地域住民の方からも広く意見を聴取しながら、作られていくようなものになると、より良くなるのではないかなと思いますので、そういった意見を聞いていただければと思います。
A委員	小学校の方もゆくゆくは登校の不便さがどうなっていくのかが、ちょっと不安に感じました。最近バスもどんどん廃線になっていっているところもあり、おそらく検討されていることだとは思いますが、例えば小学校ですと、不登校の状況にお子様になってしまった時に、親御さんの送迎がどうしても必要であり、親御さんが働いていると、子どもが例えば10時ぐらいから行きたいと思っても、行くことができない、というようなことになり、そこから不登校の状況が深刻化していくことがよくあると聞きます。そのあたりとして、手だてを打っていかないと、今どんどん不登校が増えている状況で、ますます行きにくいような形で増えてしまうのかなと。長期的にいわき市としても、何か展望を持たないといけないのかなと思っています。 不登校の取り組みで、こないだ那覇市に見学に行ったところ、不登校のお子さんを3ヶ月間限定で、支援員の方がタクシーか公用車で家まで迎えに行って、学校なりフリースクールに送るというような支援も多くあると耳にしました。いわき市としても、広域でなかなか送迎がなければ難しいという状況を何とかみんなで工夫して考えていかなきゃいけないかなというところがありましたので、ちょっとこの場で全てができるとは思わないですが、そういう問題意識を皆さんに共有いただければということで、意見ということで申し上げさせていただきました。
会長	事務局の方では、そういう情報をお伝えしていただくというようなことでよろしいでしょうか。
事務局	ただいまのご意見を教育委員会の事務局の方にお伝えしたり、あとの整備の方の事務局にお伝えするという形で、考えていただければと思います。

C委員	もう1点付け加えさせていただきます。今後に向けて実施されるときに一つの考えとして持っていただきたいのが、防災についての考えです。 今、学校教育上だと、校舎、校門を出てしまうと、学校の通学に関しては、保護者や地域が責任を持つというようなことになっているかと思います。統合し、遠方からであると、バスや公共の支援やそれ以外の方法になりますが、安全に自宅まで戻ることができるかどうかというのが、必要なところだと思います。私たちも大震災を経験しており、また改めて今般、元旦に起きた能登地震を見ましても、避難所になる、なっていく施設とも考えられると思います。四倉地域は津波でも、甚大な被害があった地域だと思いますので、防災の観点として、子どもたちが何か大雨があって帰れなくなってしまうたり、大きな地震があって帰れなくなってしまう時に、安心してその学校にとどまることができる施設という面での、防災の設備を設けた施設になっていくことを望みます。
会長	ただいまのご意見等についても、検討していただくように、こどもみらい部含めて、教育委員会、関係各課と詰めていただければというふうに思います。
E委員	四倉地区市街地の公立幼稚園ということで、いわき市私立幼稚園協会の代表をしている者として一つだけ意見をさせていただきたい。 先ほどご説明いただいた通り、各行政施設、公立の学校、学童クラブなどを集約することで、その効率化等について理解しているつもりであります。 いわき市の公立幼稚園の基本的な方向性としては、まずは主管を民間に委ねていく、というところと、統合保育に関するところを考慮し、1地区1園を基幹的な幼稚園として、当分の間残すとしていますが、現在人口減少社会に入っており、またコロナ禍もあって少子化は本当に急速に進んでおります。いわき市の出生数が、確か1700程度であり、もう2000人は大分前に切っており、私ども幼稚園協会だけの数字にはなりますが、令和3年度は4360人の園児をお預かりしておりました。令和4年度になりまして4070人、令和5年度、今年度は3821人になっている状況で、ここ3年で540人減少しているというところなんです。各幼稚園も定員を満たしておらず、園児募集に大変苦労しているというところが正直なところなんです。 当然この四倉地区にある、通園圏内、通えるところにある幼稚園、こども園も、現在、四倉第一・第二幼稚園におられる園児さんを受け入れられる状況にあるというところをお伝えしたい。また、内郷保育所を建てるにあたって、7億4000万かかったという数字を見たときに、四倉の

会長	建設が、おそらく7年後くらいになると思いますが、今現在資材も高騰しており、もしかしたら十数億円規模の施設になるのかな、と思ったときに、現在ある、既存の私立幼稚園などを有効活用していただくことで、限られた税金を使う中で、十数億円もの新しい幼稚園を建てるということは、ちょっと慎重にやられておくべきかと考えておりますので、一言意見ということで、よろしくお願いいたします。 はいありがとうございます。 こちらの方の検討は、もっと、詳しい専門的な分析も必要になってこようかと思います。いろいろな意見も踏まえて結論を出していただくように、今後も取り組んでいってほしい。 その他ございますでしょうか。 ＜次回第4回分科会の日程確認＞ 各委員の予定を確認し、次回の第4回分科会の開催日を3月26日火曜日の午後として進めることにした。
会長	その他なければ、本日の議事はすべて終了ということで、議長の職を解かせていただきます。 ご協力ありがとうございました。

以上の議事録が正確であることを証するため、次に署名押印する。

令和 年 月 日

議事録署名人 _____ (印)

令和 年 月 日

議事録署名人 _____ (印)